

## 平成26年 久留米市政10大ニュース

### 1位は『都市計画道路・東合川野伏間線が全線開通』

平成26年の久留米市政10大ニュースを次のとおり発表します。

1	<b>都市計画道路・東合川野伏間線が全線開通</b> ～市内初の環状道路が誕生
2	<b>人口が合併後初めて増加</b> ～20箇月連続で前年同月比人口を上回る
3	<b>檜原市長が再選</b> ～2期目の市政が新たにスタート
4	<b>久留米シティプラザの整備が順調に進捗</b> ～各施設の名称も決定
5	<b>石橋美術館の管理運営移行を発表</b> ～28年秋に新たな美術館へ
6	<b>子育てしやすい環境づくりを推進</b> ～入院医療費の助成を中学3年生までに拡大し、小中学校への空調機設置も進む
7	<b>女性の活躍がさらに広がる</b> ～女性農業委員も5人誕生
8	<b>北部一般廃棄物処理施設の建設工事に着手</b> ～着々と整備が進む新たなごみ処理の拠点
9	<b>指定暴力団旧本部事務所跡地の売却が決定</b> ～商業系の施設に変身
10	<b>世界のつばき館がオープン</b> ～地域密着観光の取り組みを推進
次点	◎自動車産業等の集積が進む ◎超高速ブロードバンドの未整備地域が解消 ◎南部浄化センターの消化ガスを利用した売電を開始

#### ※選定の経緯

各部から提出された182項目の中から、総合政策部、総務部及び協働推進部の次長等で31項目を抽出。その後、各部の次長などで構成する広報戦略会議の委員に順位付けを依頼し、特別職などで協議の上、10位までを決定しました。

# 平成26年 久留米市政10大ニュース

## 【1 位】

### 都市計画道路・東合川野伏間線が全線開通

#### ～市内初の環状道路が誕生

市は、便利で暮らしやすいまちを実現するため、昭和37年に土地の利用の仕方や道路整備などの基礎となる都市計画を決定。まちづくりの基盤として必要不可欠な「都市計画道路」に東合川野伏間線を位置付け、市民の皆さんの協力の下、国や県と連携して半世紀にわたって、区間ごとに整備を進めてきました。

平成26年3月21日、最後の区間となった御井町の矢取西交差点から国分町の北島交差点までの約1.3キロメートルの整備が完了。約6.5キロメートルにわたる全線が開通しました。国道210号の野々下交差点から、国道209号の野伏間交差点までをつなぐ、市内で初めての環状道路で、全線4車線で通行しやすく、歩行者の安全性や快適性にも十分配慮しています。

国道3号や209号、210号、322号といった市内の8つの幹線道路は、いずれも市の中心部から放射状に伸びているため、どの方向への移動でも中心市街地を通過しなければならず、慢性的な交通渋滞が発生していました。こうした放射状の幹線道路を東合川野伏間線がつなぐことで、交通の分散化による中心市街地の渋滞緩和や、市の北東部と南西部のアクセス、市内の回遊性などが向上し、生活や観光などでの移動の快適性や地域経済の活性化など、都市の魅力向上につながる効果が期待されます。



開通式典の後、パトカーを先頭に走り初め

## 【2 位】

### 人口が合併後初めて増加

#### ～20箇月連続で前年同月比人口を上回る

久留米市の住民基本台帳人口は、平成17年2月5日の合併時30万5,948人でしたが、23年度末には30万2,333人まで落ち込みました。24年度末には30万4,831人と、前年度比約2,500人の

増加となりましたが、これは、住民基本台帳制度の改正による外国人人口の加算によるもので、これまでどおり日本人のみで比較すると142人の減少でした。

しかし、25年度末の人口は30万5,214人となり、前年度比で合併後初めて人口が増加に転じました。また、前年同月比の各月1日時点の人口についても、25年5月から26年12月まで20箇月連続で上回っています。年齢別の増減を見ると、特に、24年2月に策定した「久留米市定住促進戦略」のメーンターゲットである子育て世帯の人口が増加しており、これは、市の豊かな自然や恵まれた医療環境などの子育てしやすい環境に加え、市が特に力を入れてきた子育て支援策や教育環境の充実などが、広く認識された結果だと考えられます。

しかしながら、今後、中長期的には少子化の進行による人口減少は避けることができません。そのため、市は、26年10月に「(仮称)久留米市まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、全市を挙げて、子育て支援やワーク・ライフ・バランスの実現などの少子化対策や、雇用の場の確保、便利で快適な居住環境づくりなどの定住促進につながる施策を戦略的に展開し、将来にわたって、より長く人口30万人の維持ができるような、人口が減少しにくい足腰の強い都市の基盤づくりに取り組んでいきます。

### 【3 位】

#### 檜原市長が再選

##### ～2期目の市政が新たにスタート

任期満了に伴う久留米市長選挙が1月26日に執行されました。選挙には、現職の檜原利則市長と新人2人が立候補。3人による選挙戦が展開され、久留米シティプラザや北部一般廃棄物処理施設の建設の是非などが争点となりましたが、檜原市長が再選。1月31日に檜原市政の2期目がスタートしました。

### 【4 位】

#### 久留米シティプラザの整備が順調に進捗

##### ～各施設の名称も決定

文化芸術の振興や広域交流の促進、街なかの賑わい創出を図るとともに、県南の中核都市・久留米の求心力を象徴するランドマーク施設として、六ツ門地区に整備を進めている「久留米シティプラザ」。平成28年春の開館を目指し、ハード・ソフトの両面から事業を進めました。

3月に、官民で構成する名称検討委員会で、建物全体と館内の各施設の正式名称を決定。「広場」については、利用する皆さんに愛着を持って使ってもらえるよう愛称を募集し、12月に、これまで市民の皆さんに親しまれてきた「六角堂広場」に決定しました。

ハード面では、4月と5月の2度にわたり、建設現場で不発弾が発見されましたが、いずれも無事に処理を終え、現在、本体の建設工事が順調に進んでいます。

一方、ソフト面では、シティプラザに対する市民の認知や期待感、来場意欲の向上等を図るため、プレ事業や情報発信事業を拡充。プレ事業については、大道芸や狂言、街なかプチコンサートなどを、規模やエリアを拡大して実施しました。また、工事仮囲いを活用した作品展示の他、シティプラザを応援し、自分たちにできることをやっていくという市民の皆さんと共に、久留米シティプラザサポーター会議を開きました。情報発信については、シティプラザ情報紙「まち×プラ」の定期発行や、特

集号の全戸配布、フェイスブックページの開設、スマートフォンなどを利用した施設案内、六ツ門商店街への情報コーナー設置などに取り組みました。

今後も、久留米シティプラザの開館に向けて市民の期待感や来場意欲の向上を図りながら、着実に施設の整備を進めていきます。



着々と工事が進む久留米シティプラザの建設現場

## 【5 位】

### 石橋美術館の管理運営移行を発表

#### ～平成28年秋に新たな美術館へ

石橋美術館は、世界的タイヤメーカー・ブリヂストンの創業者で、名誉市民の石橋正二郎氏が昭和31年に建設し、久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設です。近代洋画壇を代表する画家・青木繁の作品で、重要文化財に指定されている「海の幸」や「わだつみのいろこの宮」をはじめ、坂本繁二郎や古賀春江といった久留米ゆかりの画家の作品などを所蔵しています。

同美術館の管理運営は、市の要請を受けて、52年から石橋財団が受託してきました。しかし、同財団が平成24年4月に公益財団法人に移行したことに伴い、開館60周年の節目に当たる28年10月に運営が市へ移行することが決定。市と財団との協議の結果、財団の所蔵作品のうち筑後や九州ゆかりの作家の作品など約200点が市に寄託され、「海の幸」などの移管作品についても、年1回程度の開催を予定している石橋コレクション展へ貸し出されることが決まりました。

市は美術館の円滑な運営移行のため、9月に財団と合同の移行準備チームを編成。運営移行後も、人々の心を豊かにするとともに、魅力的で市民の皆さんに親しまれ、愛される美術館となるよう、着実に準備を進めていきます。

## 【6 位】

### 子育てしやすい環境づくりを推進

#### ～入院医療費の助成を中学3年生までに拡大し、小中学校への空調機設置も進む

全国トップクラスの子育てしやすいまちを目指し、子育て中の世帯への支援をさらに手厚くしました。子育て世代の経済的な負担を軽減するため、10月から入院医療費の助成対象をこれまでの小学6年生までから、中学3年生までに拡大。また、保育所の増改築で定員が86人増えたことなどにより、年度当初の待機児童数が4年ぶりに一桁になりました。

さらに、「安全・安心」から、より質の高い「快適」な教育環境の構築を目指し、夏季における高温化対策として、市立小・中学校の全ての普通教室への空調機設置を進めました。中学校は既に今年の夏からエアコンが使用できるようになっており、小学校も平成26年度中に取り付けが完了する予定です。

このような取り組みなどが評価され、毎年、全国の自治体の子育て支援施策の状況を調査している東京のNPO団体「エガリテ大手前」から、中核市部門で3年連続3位の評価を受けました。

## 【7 位】

### 女性の活躍がさらに広がる

#### ～女性農業委員も5人誕生

市民の皆さんの様々なニーズを反映し、質の高い行政サービスを提供するためには、多様な視点や発想が必要です。そのため市は、あらゆる分野の政策や方針を決める場への女性の参画を広げようと、市の審議会等への女性の登用を進めてきました。

「久留米市における審議会等への女性の登用促進要綱」に基づき設置された各部の登用推進員を中心に、関係団体・機関の皆さんに女性委員を選出していただくよう働きかけるなど、女性の人材発掘に努めています。また、男女平等推進センターでは、「女性のための政策参画講座」の内容をさらに充実し、女性の人材育成に取り組んでいます。

その結果、平成26年4月1日の審議会等の女性登用率は44.4%となり、昨年の43.3%をさらに1.1ポイント上回って、3年連続で県内1位を達成しました。また、全国の中核市でも、6年連続1位となることが見込まれます。10月1日現在、115の審議会等で延べ741人の女性委員が活躍しています。

また、26年7月に執行された農業委員会委員選挙において、女性2人が当選。合併後、初となる女性の公選農業委員が誕生しました。女性団体などからの推薦による3人と合わせて、5人の女性が農業委員に就任。その結果、女性農業委員の数が、県内の農業委員会でトップになりました。

## 【8 位】

### 北部一般廃棄物処理施設の建設工事に着手

#### ～着々と整備が進む新たなごみ処理の拠点

平成26年4月、宮ノ陣町八丁島地区に整備を進めている北部一般廃棄物処理施設の中核となる工場棟の建設工事に着手しました。工場棟は地上6階、地下1階で、主に可燃ごみを焼却する設備が入ります。焼却施設の処理能力は1日163トンで、1日に81.5トン処理できる焼却炉を



2炉設置します。これまでに、主に建築物の基礎となる杭工事を完了。現在、ごみピットなどの地下構造物の建設を進めており、27年には地上部の建築工事やプラント工事を行います。

また、現在市内に分散しているペットボトルなどの回収・処理の拠点を集約し、効率的にリサイクルするためのリサイクルセンターの他、管理棟や外構についても、27年当初に着手する予定です。敷地内には、太陽光発電システムや、ハイブリット街路灯などの環境に配慮した設備を導入し、地球温暖化防止に寄与。市民の皆さんの快適な生活環境を維持し、上津クリーンセンターとの2箇所、長期的に安定したごみ処理体制を構築するため、28年度の稼働に向けて、着実に新しいごみ処理施設の整備を進めていきます。



宮ノ陣町八丁島の北部一般廃棄物処理施設の工事現場

## 【9 位】

### 指定暴力団旧本部事務所跡地の売却が決定

#### ～商業系の施設に変身

官民一体で取り組んだ指定暴力団本部事務所撤去訴訟の和解成立により、平成25年10月に市土地開発公社が取得した通東町の旧本部事務所跡地。26年7月に中心市街地活性化への貢献や暴力団排除の取り組みなどの条件を付けて公募した結果、2社から事業計画案が提出されました。公社は、選定委員会で計画案の内容や買い取り価格などの総合的な評価・審査を実施。その結果、9月に食肉・惣菜販売会社「中津留」への売却を決定し、11月に売買契約と土地の引き渡し完了しました。

旧本部事務所跡地が飲食や食品販売などの商業施設として生まれ変わることで、中心市街地の活性化や周辺地域の新たな賑わいの創出が期待されます。

## 【10 位】

### 世界のつばき館がオープン

#### ～地域密着観光の取り組みを推進

平成26年3月15日、草野町に、新たなツバキの名所「世界のつばき館」がオープンしました。

ガラスハウスのツバキ展示施設には、ベトナム、中国、日本などの原種ツバキ約100種を展示し、ツバキ庭園には、「正義」や「福娘」などの久留米つばきなど約50品種160本を植栽。20年3月に開園した「久留米つばき園」と併せて、さらに多くのツバキを鑑賞していただくことができるようになりました。

また、つばき館は、耳納北麓地域のすばらしい景観、緑花木、フルーツなどの豊富な資源を情報発信していく地域の拠点施設としての役割も担っており、地域の皆さんとの協働で、久留米つばきフェアなどの集客イベントを開催しました。

これらの取り組みなどにより、オープンからの9箇月間で4万人を超える来場者を迎えることができました。今後も、同館を「みどりの里づくり」の拠点として、地域と密着した観光振興に取り組むとともに、耳納北麓地域の資源である緑花木等のさらなる振興を図っていきます。



オープンを祝ってテープカット

## <次 点>

### ◎自動車産業等の集積が進む

吉本工業団地内で進行中の「ダイハツ工業久留米開発センター」の一部が稼動し、それに伴って、エンジン部品の製造・開発企業、及びエンジン性能計測機器開発企業の2社が進出を決定しました。

また、4月には、同団地内に、自動車用プレス部品製造の「東プレ九州」が、グローバルな生産拠点として、新規金型工場の建設を決定し、グリーンアジア国際戦略総合特区の認定を受けました。

このように、地域経済の活性化や雇用機会の創出を図るために重点的に取り組んでいる「自動車産業の集積」が着実に進展しています。

さらに、7月には、広域加工流通拠点として整備した久留米・広川新産業団地に、茅島産業及び三油物流の進出が決定しました。これにより、久留米・広川新産業団地の久留米市域分は立地率100%となり、久留米・広川新産業団地全体では26社、1,281人の雇用も生まれています。

### ◎超高速ブロードバンドの未整備地域が解消

超高速ブロードバンドが未整備であった大橋町、草野町、善導寺町の一部、山本町の一部において、7月に、NTT西日本が光インターネット接続サービスを開始しました。

これにより、市内全域に重要な生活基盤となる超高速ブロードバンドの整備が完了。市内の未整備地域が全て解消され、今後、市民生活の利便性の向上や企業活動の活性化が期待されます。

### ◎南部浄化センターの消化ガスを利用した売電を開始

平成26年4月、南部浄化センターにおいて、下水を処理する過程で発生する消化ガス（バイオガス）の有効利用を目的としたマイクロガスタービン発電機2台（発電能力190k w）が稼動しました。

発電した電気（約127万k w h /年）は、再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用して全量売電を行い、年間約4,000万円の収益を見込んでいます。消化ガスを利用した発電で、この制度による下水道事業体の売電事業としては、西日本初となります。発電による二酸化炭素削減効果として年間約780 tを見込んでおり、環境教育・意識向上のための教材としても活用されています。

#### 【問合せ先】

担当課：総合政策部 広報課

担当者：坂本、高尾

連絡先：TEL：0942-30-9119 FAX：0942-30-9702